

ワークショップ

座長：大岡 均至（神戸医療センター）

■ 体幹の冷えが強い間質性膀胱炎症例で 「常にある尿意」のコントロールに 難渋した経験

原三信病院 泌尿器科

相島 真奈美、武井 実根雄、一倉 祥子、横溝 晃

【緒言】2015年にハンナ型間質性膀胱炎の一部が泌尿器科領域唯一の指定難病に認定され、2019年3月には間質性膀胱炎・膀胱痛症候群(IC/BPS)診療ガイドラインも発刊された。しかし、この疾患はまだ解明されていない部分も多く症状のコントロールが難しいこともある。今回、間質性膀胱炎症例で訴えの多い「常にある尿意」のコントロールに難渋した症例について皆様のご意見を伺いたく症例を提示する。

【症例提示】初診時68歳、女性

【主訴】常に尿意がある、残尿感、頻尿

【既往歴】大腿骨骨折で手術【併存症】高血圧にて降圧剤内服中

【現病歴】数年前から弱い尿意をほぼ常に感じるようになり、1年前から徐々に悪化してきたため2014年9月に初診した。

【初診時所見】問診では尿意切迫感は少なく、尿流測定では尿勢問題なく残尿なし。持参した排尿記録では1回量30-350ml、日中は150ml以下、日中10回、夜間1回、1日計1200-1300ml。OABSS2点、QOLスコア6点、IC症状スコア1510/4010。

身長157cm、体重51kgと痩せ型で皮膚はやや乾燥。舌は淡紅色で薄白苔、軽度歯痕あり。腹部は軽度小腹不仁、下肢浮腫はなし。

【経過】切迫感が強くないことから間質性膀胱炎を疑ったがまずは膀胱容量増加のために β 3受容体作動薬を投与したが全く効果なかった。冷えが強いと尿意が悪化するとのことで、抗コリン剤に加え当帰四逆加吳茱萸生姜湯を処方したが効果なし。尿流動態検査ではMDV367mlと知覚亢進は認めなかつたがご希望もあり11月膀胱水圧拡張術施行。800mlで102cmH₂O、側壁後壁頂部に点状出血を認め間質性膀胱炎と診断した。術後尿意は少し改善し、膀胱容量も増加したがもう少し改善を、とのことでスプラタスト開始し一時非常に奏功。2015年に強い尿意が再燃し膀胱知覚閾値の上昇効果がある牛車腎気丸を追加したが効果なし。その後しばらくDMSO注入を行い改善傾向にあった。2016年夏に体力低下の訴えあり補中益氣湯処方し、体力改善とともに症状も軽快した。その後スプラタストとの併用でDMSO注入も不要となっていたが、1年後の夏に再度炎天下での散歩をきっかけに症状悪化したため、清熱剤である猪苓湯処方。我慢できる尿意に改善するも、その冬に悪化。冷えて悪いとのことで桂枝加朮附湯に挑戦し抗コリン剤との併用で著明に改善。しばらく良かったが再度夏に悪化し、軽い尿意がずっとあるとのことで清心蓮子飲処方するも改善なく、その後六味丸と麦門冬湯で軽度改善。2019年夏には下痢をしやすいとの訴えもあり真武湯を処方すると腹部が温まる感じがして同時に尿意も改善あり。数年良かったが、今回残尿感があるためつい排尿してしまうと訴えあり、竜胆瀉肝湯に挑戦している。

【考察】見直してみると季節による症状の変化も大きく、季節に応じて組み合わせるなど何か工夫できたのではないかと考える。